

## ボランティアスキルアップ事業

# WA!んぱくキッズの森もりキャンプ(登録ボランティア自主企画キャンプ)

### 1 趣旨

立山青少年自然の家の登録ボランティアが、自然の中で元気に遊び、自然体験活動の大好きな子供たちを増やすというねらいの下、小学校低学年を対象としたキャンプを企画・実施している。さらに、ボランティアが中心となって創意工夫した活動に取り組むことで、ボランティアのスキルアップを目指している。

### 2 期日

- ①平成29年 6月17日(土)～18日(日) 1泊2日 ボラ・スキルアップ研修会
- ②平成29年10月28日(土)～29日(日) 1泊2日 WA!んぱくキッズの森もりキャンプ秋
- ③平成30年 3月 3日(土)～ 4日(日) 1泊2日 WA!んぱくキッズの森もりキャンプ冬

### 3 対象・定員

- ①ボランティア 28名
- ②小学校1年生 36名
- ③小学校2年生 36名

### 4 参加人数/応募人数

- ①15名/ 15名
- ②31名/ 34名
- ③34名/ 46名



### 5 スタッフ

- ① 国立立山青少年自然の家職員
- ② 法人ボランティア(富山大学、富山国際大学) 20名  
国立立山青少年自然の家職員
- ③ 法人ボランティア(富山大学、富山国際大学) 20名  
国立立山青少年自然の家職員



### 6 共催、後援

立少ボランティアの会(共催)、北日本新聞社(後援)

### 7 日程

- ① 「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ ～わくわく?!ドキドキ?!不思議な世界～」  
平成29年10月28日(土)～29日(日)

	午前	午後	夜
10月28日(土) 1日目	はじめのつどい 班タイム	ミッションラリー クラフト(キャンドル作り)	キャンドルサービス 星空観察
10月29日(日) 2日目	野外炊事	班タイム おわりのつどい	

- ② 「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ ～Let's ひなまつりパーティー～」  
平成30年 3月 3日(土)～ 4日(日) 1泊2日

	午前	午後	夜
3月3日(土) 1日目	はじめのつどい 班タイム	冬のトントンの森で遊ぼう	雪上キャンプファイヤー
3月4日(日) 2日目	雪 de 遊ぼう! ひな祭りパーティー	ふりかえり おわりのつどい	

## 8 成果

- 6月のボランティア・スキルアップ研修では、本所職員によりトントンの森の様子や植物などを使った遊び方などを紹介した。1年生が多かったことから、本所周辺の自然を体験してもらうことができ、上級生にとっても新たな発見があり有効であった。実際に秋のWA!んぱくキッズの森もりキャンプではトントンの森を使った活動を展開することができた。また、見てきたフィールドをもとに3グループに分かれてキャンプの計画を立てた。上級生と下級生が混じって企画することで上級生の経験を下級生が学ぶことができた。さらに、秋と冬のチームに分かれて、実際に行うキャンプの計画を立てた。「ねらいの立て方」「ねらいにつながる活動」「リスクマネジメント」を大切にしながら具体的な活動を考えていくことができた。
- キャンプを企画するにあたり、プログラムリーダー（以下PL）、グループリーダー（以下GL）の募集やチラシ作成からキャンプ本番までの予定（それぞれの提出・完成期限）を提示した。それにより、代表の学生が中心となって計画的に準備を進めていくことができた。ボランティアの中で以下のような企画の流れができてきた。

①PLが集まって企画 → ②PL下見 → ③計画が形になってきたころにGLが合流してミーティング → ④全体での下見 → ⑤企画の練り上げ

この流れの中でも、ボランティア同士の打ち合わせが毎週行われ、時折ボランティア担当が大学、本所でのミーティングに参加し、企画を作り上げていった。それにより、ボランティアの思いを生かしたキャンプにすることができた。

- 秋のキャンプでは、たくさんの活動が詰め込まれており時間的な余裕がなかった。そこで、冬のキャンプでは、活動と活動の間にゆとりの時間が取り入れた。それにより、グループ内でのグループリーダーと子供たち、子供同士のかかわりが生まれより結束が強まった。
- 参加した子供たちの服薬などの事前情報をプログラムリーダー（PL）、グループリーダー（GL）の間でしっかりと共通理解し、キャンプ中の様子、体調などもGLとPL、ボランティアコーディネーター間の報・連・相を徹底することで、ケガや体調不良、人間関係について素早い対応をとることができるようになった。
- それぞれのキャンプの反省会をボランティアが行っているので、反省事項及び申し送りを確認することで、次のキャンプの企画につなげていくことができた。

## 9 今後の課題

- 代表ボランティアとの事前打合せにおいて、電話やメールでの打合せは有効であるが、なかなか伝わらない部分も多く共通理解を図ることが難しい。実際に会って話し合うことが有効であるが回数を見込めないため、何を伝え、何を聞くのかを事前に厳選しておく必要がある。昨年度同様、最終段階での打ち合わせや確認は、互いに顔を合わせて行っていくことが大切である。
- 来年度、自主企画キャンプをもう1本増やすことを考え、早めの動きが必要になってくる。
- ストーリーキャンプを続けているが、小学校低学年にとってふさわしいかを検討する必要がある。

秋  
キ  
ャ  
ン  
プ



冬  
キ  
ャ  
ン  
プ

